

## 今泉春江議員の質問

○小関勝助議長 次に、順位2番、議席番号4番、今泉春江議員。

(4番今泉春江議員登壇)

○4番 今泉春江議員 おはようございます。

日本共産党の今泉春江でございます。私は、当面する市政の改善、強化すべき点について市長に質問いたします。

まず第1は、つつじ公園のつつじの花対策についてです。

長井の市民が楽しみに待ち望んでいた桜、そして白つつじが咲き終わり、今度はあやめの開花が待たれます。毎年、ことしの花はどうだろうか、どんな花が私たちを迎えてくれるのだろうかと市民は楽しみにしており、外からも大勢の方に訪れていただきたいと願っています。そんな中、5月16日の山形新聞にも掲載されておりましたが、楽しみにしていた白つつじが雪のため下枯れてしまい、悲惨な姿となりました。本当に残念でなりません。ことしの被害は昨年よりも深刻で、市民の皆様はがっかりしました。何よりもつつじの木がかわいそうです。

私は、昨年の6月議会でこのことについて指摘し、対応をお願いいたしました。花のまち長井をアピールするのであれば、市は市民の宝である白つつじを何よりも大切に、市民とともに守っていかなければならないのではないのでしょうか。どうしてこうなったのか、今後こうしたことを繰り返さないために、どう対処するのかをお聞きします。

第2に、市民の健康増進対策についてお伺いします。

まず、がん、糖尿病、高血圧など主要疾病の対策についてです。

誰でもが健康で長生きしたいと願っていると思います。しかし、病気や加齢などにより、さ

まざまな機能が低下し、医療機関や薬のお世話になってしまいます。しかし、これを仕方がないと思っただめだと思えます。

そこで、お聞きします。市民の健康状態はどうなっていますでしょうか。そして、市民の健康づくりはどのように進んでいるのでしょうか。

先日、「長井市健康増進計画(第2次)健康日本21ながい」が届きました。桑島一郎策定委員長のもと、12名の委員の皆様により、長井市の健康づくりが協議され、17の基本施策を10年間の計画とし、展開することが提案されております。その中で示されている山形県の平均寿命は、男性79.97歳、女性は86.28歳、健康寿命は、男性70.78歳、女性73.87歳となっており、全国平均より女性の平均寿命がわずかに下回っていますが、ほかはいずれも上回っていることも示されています。

ところが、長井市の死亡統計の三大疾病死亡率では、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患がいずれも全国と県平均より高いことが示されています。さらに、長井市では、高血圧や糖尿病の疾病が県の平均より高く、国民健康保険疾病分類の診療費でも、悪性新生物と並び、高血圧や糖尿病が県平均より多くなっています。健康寿命が上回っているとしても、この多さには驚きです。これらが改善されれば、さらに長井市民の健康寿命が上がるのではないかと思います。市はこの原因をどう把握し、改善のためにどんな対策が必要とお考えか、伺います。

次に、市民が健康診断を受けやすくするための対策についてです。

健康増進計画の中に長井市国民健康保険特定健康検査等実施計画が上げられていますが、市の資料によりますと、特定健康診査受診数は24年度は前年より231人多い1,800人が受診し、受診率は前年の33.2%から38.5%に上がっていることが報告されています。長井市では、保健センターの集団健診だけでなく、個別に同じ料金

で指定開業医や長井病院での受診もできるようになりました。これは大変よいことで、皆さんから喜ばれています。

また、長井市では、がん検診などに市が料金の補助をし、自己負担の軽減を図ったり、年齢ごとに無料クーポンを送り、受診促進の取り組みなどを行っています。さらに、今年度からは胃がんや乳がんの自己負担検診料金がさらに引き下げられ、市民にとっては大変助かります。ある市民の方が「たまたま無料クーポンで初めて受診したが、検診が大切だとわかりました。来年からは無料ではないが、市の補助もあるので、また必ず受診します」などと話されており、無料クーポンが検診の啓発となりました。

しかし、このような市の補助があり、自己負担がわずかだということがわからなかったり、基本健診にさらにがん検診がプラスとなり、検診の料金負担が重く、受診できなかつたりして、病気の発見が遅れ、手遅れになってしまう方もおります。私の知人で検診の費用が負担になり、受診せず、気がついたときにはもう遅く、亡くなられてしまいました。家族の方が悲痛な思いを打ち明けており、何と悲しいことなのかと悔やまれました。せめてもう少し早くに検診を受けておればと強く思いました。

がん検診に市の助成があることがわからず、受診しない方もたくさんおられると思います。がん検診などの自己負担軽減を市民にわかりやすく十分周知し、検診を促進していただきたいと思います。

そこで、さらに検診を受けやすくするために、特定健康診査を思い切って無料にしてはどうでしょうか。昨年の国保の特定健康診査受診対象者が4,677人おられますが、この料金が1,000円です。この方々全員でも467万7,000円で、この特定健診を無料にすることが可能です。そうすれば、他のがん検診も受けやすくなり、さらに市民の受診者がふえて、健康づくりが推進

されるのではないのでしょうか。受診率100%を目指して、そのような思い切った対策も必要と思いますが、市長のお考えはいかがでしょうか。

次に、3つ目として、食生活改善推進員と運動普及推進員の大幅増員と活動の援助について伺います。

この長井市健康増進計画では、大きな3本の柱の基本目標があります。その1、健康意識を高める、2、適切な生活習慣と生活環境で健康増進を図る、3、体と心の健康づくり、この3つの基本目標の中に17の基本施策があり、学校、職場、そして行政などの取り組みで展開する計画が提案されています。17の基本施策を詳しく見ますと、この施策の担い手に食生活改善推進協議会や運動普及推進の会の方々の活動による健康づくりが計画されており、この基本施策17のほとんどの施策に食生活改善推進員と運動普及推進員がかかわっていることがわかりました。このことは大変重要なことです。このため、食生活改善推進協議会と運動普及推進員の会についてお話ししたいと思います。

この2つの団体は、どちらもボランティアで、市民の健康づくりの推進のために活動しています。この団体の一つである食生活改善推進協議会の会員は、今年度153名おり、その活動は、生活習慣病予防や高齢者の低栄養予防に努めたり、保育園を訪問し、食育寸劇などを通して幼児への食育教室、また地産地消の推進など、さらに市報に減塩などの健康レシピを掲載したりと、多岐にわたって活躍しております。昨年は、生活習慣病ワースト25ステップアップ事業として、糖尿病予防教室、高血圧予防教室なども開催しております。これらの活動は、多くの市民の皆様から評価され、大きく期待されております。

長井市の協議会は、県や全国でも取り組みが高く評価され、厚生労働大臣表彰の受賞など多くの賞をいただいております。また、会員は推

進手帳を持ち、そこに活動の内容や回数、対象者の人数などを記入し、毎年、長井市にて集計され、山形県とさらに日本食生活協会にも報告、集計され、活動の様子が検証されます。

長井市では、昨年度は生活習慣病予防や高齢者の健康、母子の健康、貧血予防などの事業で53回、市民の参加人数は3,896人と報告されています。さらに、対話などの活動も含めると、1万3,167人という多くの市民の方々を対象に健康づくりに携わっていることが報告されています。しかし、この報告より実際はもっとずっと多く、日常のお茶飲みなどでも減塩やさまざまな健康づくりの話がされており、多くの市民に影響を与えています。実はこのような日常の取り組みがとても大切なのです。食改員は、このように市民の健康づくりに日々貢献しているのです。また、運動普及推進員は47名おり、ミニデイや、ふれあいサロン、まご〜れ、そして地区の公民館などで介護予防や運動の普及のために活動しております。

2つの団体は、このように市民の健康づくりに大きく貢献しています。さらに、この団体は、今年度から10年間、中心的にこの健康増進計画の施策の推進に取り組むと計画されています。この方々が市民の健康づくりの中心となり、今後も大きな力となり、健康づくりが推進されるのではないのでしょうか。この方々の活動なしでは長井市の健康づくりは進んでいかないのではないのでしょうか。そのためにも、この食生活改善推進協議会と運動普及推進の会を大きくして健康増進計画の推進を図り、市民の健康づくりを進めていく必要があります。このため、市としても、会員拡大のために力を入れて取り組むよう強く要望します。

さらに、この2つの団体の活動の援助について伺います。

食生活改善推進協議会は、市と健康づくりの委託契約を結び、毎年5万円を委託料として協

議会がいただいております。会の運営費や事業費として使わせていただいております。しかし、それだけでは多くの事業はできず、会員から1,500円の会費を徴収し、その中から県の会費を納め、残りで各地区の活動の補助をし、それでも足りない地区は独自でさらに会費を出し合い、市民のために活動しております。さらに、置賜や県の会議、イベントや研修などは全て手弁当で、それでも多くの会員が頑張っています。

また、運動普及推進員の方々は、それでも1年間、1人2,000円の活動費をいただき、その中からボランティア保険を掛けて頑張っています。幾らボランティアだとしても、長井市の健康づくりの中心を担う方々にこのような状態でよいのか、市として、それぞれの団体に事業や活動の援助を検討していく必要があるのではないのでしょうか。市長のお考えを伺います。

以上、長井市健康増進計画により、市民の健康づくりが大きく推進されることを強く要望し、質問を終わります。（拍手）

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今泉議員からは、大きく2点ほどご提言をいただきました。順次お答え申し上げます。

まず最初に、つつじ公園のつつじ雪害対策の強化について、お答えを申し上げたいというふうに思います。

議員からは、白つつじが雪のため下枯れしてしまい、悲惨な姿となったと。昨年6月議会でも指摘し、対応をお願いしたにもかかわらず非常に残念な結果で、反省してもらわなきゃ困るというような質問の趣旨でございます。

まず、大雪とはいえ、ああいう結果になったことについては私どもも全力でやったにもかかわらず、結果がああいった状況であったのは非常に残念であり、非常に申しわけなく市民の皆さんに思っておるところでございます。

なお、議員からは、下枯れというようにお言

葉で表現されておりましたが、あれは雪焼けでございまして、葉が枯れてるんですね。葉枯れという状況でございます。したがって、一見あそこの部分が死んでしまったようなふうに普通一般の市民は思われるんですが、あれは葉がことしは出ないということで、来年以降は、状況にもよりますけれども、回復するというふうに考えておりますので、そういった意味で、雪焼けという言葉を使わせていただきたいと思います。

まず、雪焼けによる葉枯れの原因でございます。これは雪焼けが起きる原因として、1つは大雪でございます。近年の雪焼けの発生した年を見ても、平成18年、平成23年、24年、25年、これはいずれも大雪の年でございます。特にことしは3年連続の大雪ということで、被害が特に大きかったのかなというふうに思っております。

あと2つ目は、いわゆる低温でございます。積雪深がなくても、気温が低い年は雪解けが遅くなりまして、また厳寒期に積もった雪が氷結したまま下のほうに蓄積、堆積してしまいます。ことしは、まさにこのような現象が起きたというふうに見ております。過去3年間は、いずれも大雪の年でございますけれども、特にことしの気温は3年間の中でも一番低かったというふうに思っております。

かつて私ども、南東北のほうは、北東北の岩手、秋田などと違いまして、道路のアスファルト舗装が凍みするという現象がなかったんです。ですから、去年、国のほうで認めていただきましたけど、凍上災、アスファルトが凍みするというものを過去18年と23年ですか、2回認めていただいたんです。それぐらい私ども南東北も寒い、昔は考えられなかったような日が時々出てくるということでございます。

ことしも1月は、かつてない厳しい冷え込みで、マイナス14.1度を記録した日もございまし

た。私の記憶ですと、やはり私どもが育った30年代、40年代というのは、マイナス5度、6度になるのも年に1回や2回あったぐらいしかないというふうに思ってるんですが、今はマイナス10度以上が何日もあるということで、雪解けが進まなかったと。そういったことに対応するようなやっぱり管理の仕方も検討しなきゃいけないと思っております。こういった要因で雪焼けが発生したということをもとにご理解いただきたいと思います。

雪焼けがなぜ発生したかという原因のほかに、仕組みと申しますか、その発生の経過ですが、2月中旬から雪解けによりまして、雪がどんどん沈んでくるわけですね。雪囲いは大きいものについてはしてるんですが、全部すっぽりというのはしておりません。したがって、雪が上にあつたのがどんどん根っこのほうに沈んでいきます。いわゆる圧縮されてくるわけですが、そうしますと、雪の下のほうは締まってまいりまして、氷の状況に近くなってしまいます。そのため、中に閉じ込められた葉や準備していた新芽が焼けるという現象だそうです。特にことしは、雪の下の層に厳寒期の雪がそのまま圧縮された状態で残っていたという報告を受けているところですが、通常は雪がざけまして、下のほうにあるわけなんですけど、ことしは非常に締まった形で雪が残っていたということで、雪焼けがひどくなったものと考えております。

なお、枯れた部分についてですが、枝自体は枯れていないため、また芽は出てくるようでございます。ただ、ことしはちょっと難しかったんですが、来年にかけてまた蘇ってくるものというふうに思っております。

対処法についてお答えいたします。つつじを雪から守る対応として行っていることを説明いたしますと、まずは雪囲いでございますけれども、市の天然記念物に指定されている七兵衛つつじと言われる古木は、完全に全てを板で囲っ

て対策しております。また、株の小さいものは、くいを打ちまして、縄で縛っております。園内のつつじですが、相当株が広がっており、数も多いため、このような方法でできないのが現状です。全てはなかなかできないと。しかし、昨年の経験から、古木の周りのつつじも株の外側の枝が雪で地面につかないように、くいで支える対応を行ったところがございます。その結果、一定の効果があることがわかっておりますので、なおこういった対応をできるだけ多くの古木にするようにしたいと思っております。

あと2つ目の対策が除雪ということで、毎年、雪解けが始まると除雪機によって園内の通路やつつじの周りを除雪しております。雪が多い年はバックホーでつつじの株の中央部分の雪を取る作業をしているところです。その後、手作業による除雪を行うようにしていますが、これが通常行ってる除雪だったんですけど、それでも葉枯れが発生してしまったということです。

今後についてでございますが、園内のつつじについては木自体が相当多くなっておりまして、ご承知のとおり、古いものと樹齢750年を超えてるというわけでございますけれども、株もかなり広がっております。したがって、雪囲いが非常に難しい状況にあることは確かでございます。今後とも、雪囲いと除雪を中心に行っていきますが、特にことしの雪焼けを教訓にして、来年度に対して、次のような対応を行っていきたいと考えております。

まず、株の中央部分は、どうしても手作業で雪を取り除くことが重要になってまいりますので、来年度にかけて人員体制を検討していきたいと思っております。2点目は、雪囲いは株の外側部分を上げることで、ある程度効果が確認されます。引っ張ってるんですね、外側の株を。そういったことで、このように全て危険性のある株については対処していくよう予算を確保したいと思っております。

また、つつじの木そのものの体力、いわゆる冬を乗り越える栄養分が落ちているのではないかというご指摘も受けておりますので、1株当たりの枝の量を調整する刈り込みを工夫したり、あるいは肥料、堆肥のやり方も検討していきたいというふうに思っております。幸いことしは、樹木医の先生から助言を受ける機会がございますので、よく相談して、総合的に取り組めるように準備をしてみたいと思っております。

やはり市民の方は心配されるんですが、幸いにもあれは枯れたのではなくて、葉枯れという現象ですので、そういったことで、やっぱり何百年も先人の人たちが大切に守ってきたものを我々の代でなくすことのないように頑張っていきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、大きな質問の2点目、市民の健康増進対策でございます。

まず第1点目のがん、糖尿病、高血圧等主要疾病の対策についてでございます。疾病の原因については、遺伝的な要因や生活習慣等さまざまな原因があり、特定できているものではございませんので、いろいろな対策を行って改善を図る必要があると考えております。このたび関係者各位のご指導、ご協力によりまして、健康日本21ながい（第2次）を策定したところですが、この中に健康意識を高めること、適切な生活習慣と生活環境で健康増進を図ること、体と心の健康づくりの3つを柱として定めましましたので、これに沿って対策を進めていきたいと考えております。

まず予防ということで、健康意識を高めるための知識の啓蒙や自主性を啓発してまいります。次に、生活習慣の改善に取り組むことが重要と考えておりますので、栄養と食生活、運動と休養、睡眠、そして飲酒、喫煙のリスクの低減などの情報提供を行っていきます。塩分や糖分、脂質のとり過ぎの対策や市民1人1スポーツの推進等、子供のころから常に学べる機会づくり

を関係機関のご協力をいただきながら進めてまいります。

次に、検診を受けていただくことで疾病の早期発見、早期治療に結びつけていく必要があると思います。第5次総合計画のためのアンケート調査結果では、多くの方が健康が最も大切と答えられていますが、一方で、健康課で実施したアンケートでは、運動に心がけている方の割合が35.7%となっております。また検診受診率等を見ましても、考えていることと実行していることにギャップが見受けられます。検診の受診率アップも、疾病対策として重要なファクターでございます。これは今泉議員ご指摘のとおりでございますので、また喫煙や飲酒は疾病のリスクを高めるものという研究がありますので、健康日本21ながい（第2次）では、目標を定めて対策を進めることとしております。

幼児、中学生、パパママ教室、母子健康手帳交付、新生児訪問、乳幼児健診等あらゆる機会を利用しながら健康増進を呼びかけ、市民の健康が守れるように努めてまいりたいと思います。

2の2点目でございますが、市民が健康診断を受けやすくするための対策についてでございます。

長井市では、がんの罹患者及び死亡者が全国と比較しても多い地域であり、今泉議員のおっしゃるとおり、今年度のがん検診の自己負担額のうち、胃がん検診の自己負担金を2,300円から1,000円まで引き下げまして、受診率を向上させるよう努力しているところです。また、40代の乳がん検診の自己負担率も3,150円から2,100円に引き下げると同時に、対象年齢をやはり女性の方々からいろいろ要望がありますので、5歳引き下げて35歳から受診できるようにしたところでございます。また、男性の前立腺がんは65過ぎてからの発症が多いということから、この年齢の方に対し、検診のきっかけづくりとなるよう自己負担額を1,100円として、受

診ししやすいようにして受診意識の向上を図りたいと考えております。

特定健診を含めた総合健診の実施につきましては、その年の1月に全戸対象に申込書の発行を行い、申し込みを取りまとめて、検診票を日程に合わせて送付するとともに、今年度申し込みのなかった2,600名に対して、さらに追加のお知らせを送付することで周知を図っております。また、市報やホームページ等でもお知らせをしておりますが、わかりやすいお知らせができるように、今後とも工夫してまいりたいと思っております。

次に、今泉議員からご提言のあった市民が健康診断を受けやすくするための対策で、特定健康診査を無料にしてはどうかというご提言でございます。

国民健康保険被保険者の特定健康診査に係る費用については、事務費も含めて国民健康保険特別会計から一般会計に繰り出しし、健診に係る業務は健康課で実施しております。今年度の国民健康保険特別会計の予算では、繰出金が2,098万2,000円で、その財源は国庫支出金と県支出金で806万円、特定健診個人負担金が140万円、残り1,152万2,000円が市の一般財源となっております。現在、長井市国民健康保険が実施している特定健康診査に係る個人負担金は、40歳以上70歳未満の方が1,000円、70歳以上の方が無料となっております。

したがって、議員がおっしゃるように、個人負担金を全て無料にしますと、今年度の予算でいえば140万円の歳入減ということになりますし、個人負担を軽減することで、すぐに受診率が向上するという事になれば、健診料を増額しなければならないこととなります。これまでは集団健診の回数をふやしたり、個別健診を実施したりして受診機会を拡充し、受診率の向上を図ってきたところですが、すぐにその効果があらわれるかどうかは別としても、受診者の負

担軽減も受診率向上のための一つの大きな手法であるというふうに認識してるところでございます。

市が今設定している個人の負担額は、置賜3市5町の中では米沢市と並んで最低の状況だということで、ことしはそこまでさせていただいたところなんです。短期的には国民健康保険特別会計全体の運営状況も勘案する必要がありますので、今後、他の保険者との比較も行い、国民健康保険運営協議会で審議していただくなどしながら、総合的に検討したいというふうに思っておりますが、やはり何としても健診率を上げるためには、議員のご提案のとおり無料化するというのは一番望ましい形だと思いますし、私も、常々行財政改革が一定程度成果を上げたら、特に幼児、ゼロ歳児から中学生は、今まで小学校6年までしかしてないんですが、中学生、義務教育のところまでは最低でも無料化すべきだなと。あるいはその上の段階では、18歳未満のいわゆる働いていない子供たちにもやっぱり無料化すべきだと思っておりますし、それから国民健康保険に加入されている方については、例えば杉並区とか東京の区で多くが行っているように、40歳以上の方は健診は全て無料ということが私は行政としての望ましい姿だと思っておりますので、ぜひ財政状況なども勘案して、できるだけ早く議員の提言のようにしたいものだというふうに考えておりますので、今後、いろんな面で関係者の皆様と検討してまいりたいと思います。

次に、質問の最後の答弁になりますが、食生活改善推進員と運動普及員の大幅増員と活動の援助について、お答えをしたいと思います。

食改員及び運動普及員の活動につきましては、市民の健康づくりのために常日ごろから大変なご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げますとともに、まことに頭の下がる思いで、重ねて敬意を表したいというふうに思い

ます。健康日本21ながいの第2次計画には、栄養と食生活の重要性を広めること、運動週間の環境づくりを行うことが非常に重要であると掲げておりますが、これに欠かせない普及活動を担っていただいておりますことは、重ねて大変ありがたい、素晴らしいというふうに考えてるところです。

ボランティアを実践していただいている会員の拡大については、本年度の事業として運動普及推進員の養成講座を開催することといたしております。また、本年度新規事業として、学・食・運という新規事業で健康意識、食事と運動の大切さを楽しく学んでいただくための取り組みを進めているところです。近々受講生を募集し、参加を図ることで市民の健康意識の向上を啓蒙するよう努めてまいります。

また、運動普及推進員の方には、年4回のレベルアップ研修を受講していただき、指導技術の向上に取り組んでいただいております。また、活動に生かしていただいております。また、食改アドバンス事業にも参加いただきまして、向上を目指して取り組んでいただいております。運動普及員や食生活改善推進員の方々の士気を高めていけるよう、また活動の場を広げられるよう、そういった対策などについても考えていかなきゃいけないと思います。

また一方では、食生活改善推進協議会会員の脱退を食い止めるための活動に取り組んでいただくことが必要ではないかと考えているところです。会員の方々の考え方をお聞きし、推進員の皆様と相談しながら、活動を継続できるような協議会運営をサポートしてまいりたいと思います。食生活改善推進協議会の総会にはお招きいただくんですが、担当課のほうにもお願いして、ぜひ懇談したいですね。ちょっとわからないんです。私もちょっと勉強不足なんですけど、ぜひ懇談をして、例えば女性の団体ですと、たくさん活発な活動をされてる団体があるんです

が、やはり総会にお招きいただいたり、あとは懇談の場を設定していただいたりして、皆様の声をお聞きしたいと思います。

そういったことで、会の活動がより活発にできるような、そういった方法について、いろんなご意見をいただきたいというふうに思いますし、議員からございました組織の運営費補助という考え方でございますが、これにつきましては、過去15年ぐらいにわたる行財政改革の中で、特にここ8年間の間で運営費補助というのは全てなくしてしまいました。これをもう一回復活させるということになりますと、やっぱり改めて検討しなければいけないということから、一番望ましい形は事業費補助、何か事業をすることについてお手伝いをさせていただくというのが一番ありがたいというふうに思っておりますが、ただ、どこの組織もやはり若い新規会員の方がなかなか応募していただけないと。会員そのものが高齢化しているという問題などもあったり、さまざまな組織によって課題がたくさんあるかと思しますので、これから行財政改革を進める上で、そういう運営費補助をどういうふうに考えていくかということなども再度検討していきたいというふうに思いますが、ぜひ協議会事業の推進につきましては、先ほど申し上げましたように、いろんな事業に対するお手伝い、実費負担あるいは事業経費等として委託料という形で、今の行革のスタイルの中でも十分お手伝いというか、お支払いすることができるかと思しますので、いろいろご意見をいただきたいというふうに思います。

大変長くなりましたけれども、私のほうからは以上でございます。

○小関勝助議長 今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 答弁ありがとうございました。

まず最初のつつじの私、下枯れと申しましたけど、雪焼け対策ということで、今、市長のお

話では、枝は枯れてないので、花は来年、再来年と出るだろうというようなお話でした。私も、長井樹石会の方にお聞きして、この雪害対策ということで、早い時期に枯れた枝の部分をカットして、根元に肥料をまくと新芽が出て、ことし花は咲かないが、来年には花芽もつくだろうと、来年は大丈夫だということをお聞きしました。そして、つつじは高い肥料は要らないと、油かすが非常に効果的だなどということも直接お聞きしてまいりました。

しかし、今、市長がおっしゃった話なんですけども、枝は枯れてない、花は出るとおっしゃいましたけど、つつじの木を見ましたら、何本も根元からというか、ぶつりと切ってあるんですよね。私、ちょっと驚きました。あれしか対策はなかったのかなと、きょう、ずっと自転車、ついこの間まではそのままだったもので、どのくらい新芽が出てるのかなとか、どのくらいまた枯れてるのかなと再度確認のために、つつじ公園の前を自転車で通って、そしておりて見ましたら、大きなつつじがみんな枝の根元から切られてるんです、何本も。そのような手だてしかなかったのでしょうか。市長、お伺いします。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

ちょっと私、切った状況を残念ながら見ていないんですが、私どもの公園管理については、市のほうで直営でしております。直営といいますが職員がしてるのではなくて、作業員を雇用して行っているわけですが、その際には十分な技術的なことを確認してから措置をしてるというふうに思っておりますので、ちょっと今の段階でその方法はそれしかなかったかどうかということについては、すぐにはお答えできませんが、やはり桜もそうなんですけども、あるいはあやめもそうなんですけども、そういう植物の専門家、しかもこれ相当高度な知識を持った方が



常時やっぱり顧問として指導を受けないと難しいのだと思います。

なお、作業員の中でチーフをしている職員は嘱託の職員なんですけども、かなり高度な栽培技術、管理技術を持っております。したがって、私は、その職員と市の担当である観光振興課のほうの対応については信頼をしておりますので、決して誤ったやり方ではないというふうに思いますが、ちょっとすぐお答えできないのは申しわけございませんが、後日、それらについての対応の経過についてお答えさせていただくということよろしいでしょうか。ちょっとすぐ即答はできないのですが。

○小関勝助議長 今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 それでは、ちょっと担当課長にお聞きします。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今この場でお答えしろということでございますので、じゃあ担当課長の観光振興課長のほうから、ちょっとその状況も含めてお答えさせていただきます。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 お答えいたします。

今回、根元を切ったということについては大変申しわけありません、私も承知していませんでした。今回については、私が承知していたのは、部分的に全く枯れてしまった、別の原因で病気で枯れてしまった株が数株あったものですから、その部分を除いて、新たに別のところからその部分を補うために補植して移すということは承知しております。それについては聞いております。今回、たまたま樹木医の方が長井市にいらっしゃいますので、その方から、きょう、あした、あさってですかね、数日間こちらにいらっしゃいますので、そのときにつつじ公園にもいらっしゃっていただいて、ご指導を受ける予定をしております。

以上、つたない答弁で申しわけございません

が、これで残る部分については詳細を後でご報告させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○小関勝助議長 今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 今申し上げたことを後で調査して報告いただきたいと思いますが、早急、きょう行って見ていただきたいと思いません。樹木医の方がきょう、あしたいらっしゃるということであれば、先生がいらっしゃってからも遅くはなかったような気がしますけども、本当にあの状態を見たら、きょう、がっかりしました。下枯れでもがっかりしましたけども、あれでは新しい枝が出るということは、もう何十年もかかるんじゃないかなと、本当に何年ではきかないほどぶつりと切っておりましたので、ぜひこのことを見ていただいて、報告をお願いいたします。

ですから、私は、きょう、このつつじ対策というか、長井市が観光産業ということを申し上げて、観光交流拠点などということも議会で議論されております。この中で、やっぱりつつじやあやめを大切に守っていくということでは、長井市の中で公園管理課のような課を設けて、常に専門の方の知識で、そして去年のような大雪のような、そういう対策にも対処できるように、そういう大切なものを守っていくために必要ではないでしょうか。市長、いかがでしょうか。そういう課が欲しいと思えますけども。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

今泉議員おっしゃるとおり、つつじ、あやめ、桜、またハギというのは長井市の宝でありますので、これは一生懸命管理をしなければいけないというふうに思います。ただ、それと観光振興計画は一体化であります、だから観光振興計画なんて立てる必要がないとかいうものではありません。またつつじで有名な久留米であったり、あるいはこの近くですと桐生、どこの園に

も大変な時期ってあるんですよ。桐生も今から15年ぐらい前、全滅のおそれがあったんですね。大変な問題になって、桐生市ぐらいになりますと、私どもよりしっかりとした専門家を雇用してるんですが、それでもやっぱりこういう樹木、花というものは農業と同じで、天候とか害虫とか病気でいろいろ左右されますので、それは努力いたしますが、だからといって怠慢によるそういう被害ではございませんので、そこところはご理解を賜りたいと、最大限の努力をしてつつじもまた回復に努めます。また、あやめも、かつては15年前ぐらいは大変な状況でした。その年々でいい悪いがありますけれども、大変難しい作物でありますので、そこについてはご理解を賜りたいというふうに思います。

○小関勝助議長 今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 職員の方もお忙しいし、専門の知識ということは非常に難しいわけですから、怠慢とは申し上げませんが、やはりそこを対処して下さる専門の方がいないと、こういう不測の事態にも対応できないわけですので、ぜひこのことを公園管理課のような課を設けて、長井の花を大切に育てて、守っていただきたいと要望します。時間もないので、次の再質問に移ります。

2番目に、健康診断を受けやすくする対策ということなんですけども、ごめんなさい、その前に、がん対策でした。

まず、食改さん、それから運動普及推進員の方などで頑張っていておられます。市長のおっしゃるように、ぜひ力を入れて健康増進計画を進めていただきたいといます。そして、今、市長が特定健診無料ということも一つの大きな手法ではないかとお話もしていただきましたので、ぜひこのことも検討していただき、そして中学校までの医療無料化、18歳までの医療無料化も考えているとおっしゃいましたので、ぜひ前向きにこのことも検討していただきたい

と思います。大きな目標を定めて、長井市の健康づくりに力を入れ、ぜひ進めていただきたいといます。

そして、食改の会員、運動普及推進員の会員の拡大ということを申し上げました。やはり先ほど申し上げましたように、2つの団体はボランティアです。やはりボランティアというのは、皆さん、ボランティアで頑張ってるんだという自負はありますけども、限界はあるんです。ですから、今、市長がおっしゃったように、私も、個人の手当とか、そういうものは申し上げません。やはり事業費など手だてしていただきたいなど強く思います。例えば食改のミニデイなんかの昼食提供があるんですね。高齢者の乳製品を使ったカルシウム満点の食事とか減塩の食事など提供するんですけども、10何カ所もミニデイもするんですけども、補助が1カ所5,000円で5カ所ぐらいしかないんですよ。取り合いまではいきませんが、去年はうちでいただいたから、じゃあ平野さん、どうぞとか、小出さん、どうぞとか、そういうふうにお互い譲り合ってその補助金を使わせていただいております。8地区ありますので、せめて1回ぐらいずつの補助ぐらいい出していただいて、健康づくりというか、そういうものの推進を進めていただきたいといます。市長、いかがでしょうか。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

やっぱりボランティアとして、さまざまなそういった地域福祉の向上のために、食改の視点からいろいろご尽力いただいておりますことに改めて感謝を申し上げたいというふうに思います。議員からご提言があった件についてでございますが、やはり食改の皆様からお聞きしたいと思ってます。やっぱりボランティアなってる団体というのは、それなりに自分の自立した考え方で事業をなさってるわけですから、いや、これちょっと大変だから、少し市のほうでも手

伝ってくれないかというふうに言っていたかと、私どもとしては、それはぜひお手伝いさせていただきたいと。ただ、それを頼まれていないのにやるということは失礼だろうというふうにも思いますので、ぜひ議員からいろいろご指摘いただいた部分については、協議会のほうにでもお話をいただいて、そして担当課を交えながら、どういうふうにしたら自分たちのボランティア活動がより活発になって、市民の皆さんに喜んでもらえるかと。私どもは、側面からお手伝いをするというような考え方で進めていきたいとしますので、よろしくお願ひしたいとします。

○小関勝助議長 今泉春江議員。

○4番 今泉春江議員 市長が食改員さんと懇談したいという先ほどお話でしたので、ぜひ会員の声を聞いていただいたり、私たちの健康推進事業をよくご理解いただいたりする場を設けていただきたいとします。ぜひ実現していただきたいとします。

時間も最後になりましたので、最後に申し上げます。まず、市長は、日本一幸せに暮らせるまち長井と申されております。しかし、こういうことを掲げている市町村は、私が知る限りではないのかなと思います。しかし、この日本一幸せに暮らせるまち長井ということは大変大賛成です、私は。ぜひこういう長井にしていきたいと強く思います。私も努力いたします。しかし、そう言ったからといって、すぐ実現できるものではありません。日本一というものが長井に幾つあるのでしょうか。それを実現するには、一つ一つ積み上げていくことで、その合計が日本一ということになるのではないのでしょうか。そういう点で、きょう提案したつつじ公園を日本一の白つつじ公園にして守っていくためにも、公園管理課のような課を設けていただいて、長井市の観光のために、市民のためにやはり守っていただきたいとします。

そして、市民の健康づくりが早期発見、早期治療が何よりも大切ですので、私の提案している特定健診無料を実現してもらい、そして市民の健康づくりが進んでいくように進めてもらいたいと思います。私は、この特定健診が無料の市町村はあるのかと思って、共産党の中央委員会にお聞きしたところ、熊本県の宇土市で今年度から実現することになったそうです。長井市と似たような市だと思いますけども、このことを実現すれば、それこそ日本一となるのではないかと思います。ぜひ実現なさっていただき、日本一幸せに暮らせるまち長井を目指していただきたいとします。そこを強く要望いたします。私の質問を終わらせていただきます。

○小関勝助議長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午後 0時00分 休憩

午後 1時00分 再開

○小関勝助議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 赤間泰広議員の質問

○小関勝助議長 順位3番、議席番号1番、赤間泰広議員。

(1番赤間泰広議員登壇)

○1番 赤間泰広議員 公明党の赤間泰広でございます。通告書に従いまして質問させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

毎年、およそ12万人が胃がんを発症し、約5万人の方が亡くなっております。胃がんによる